

1 看護職員等研修事業

| | | | |
|------|---|--------|--|
| 研修名 | 1) 保健師助産師看護師実習指導者講習会 | | |
| 開催日時 | 令和5年8月7日(月)～11月2日(木)のうち33日間(189時間) 時間 9:30～16:30 | | |
| 修了者数 | 31名(会員30名・非会員1名) 職種(助産師1名、看護師30名) | 定員 50名 | |
| 目的 | 看護教育における実習の意義ならびに実習指導者としての役割を理解し、効果的な実習指導ができるように必要な知識、技術を習得する | | |
| 講師 | 研修日程表 下記表1参照 | | |
| 内容 | 研修科目・時間数・内容 別添表2参照 | 講義・演習 | |

表1 講習会日程表

は公開講座

| 月日 | 曜日 | 午前 9:30～12:30 | 午後 13:30～16:30 |
|------|----|--|-------------------------------------|
| 8/7 | 月 | 講習会全体のオリエンテーション (開講式終了後～) | 医療看護の動向と展望 高知県看護協会 会長 藤原 房子 |
| 8/8 | 火 | 教育原理 高知大学教育研究部 教授 岡谷英明 | |
| 8/9 | 水 | 教育原理(教育制度の観点から) 高知大学教育研究部 助教 柴田里彩 | |
| 8/10 | 木 | 教育原理(学習科学の観点から) 高知大学教育研究部 准教授 野中陽一朗 | 教育方法 高知大学教育研究部 准教授 野中陽一朗 |
| 8/21 | 月 | 教育方法 高知大学教育研究部 准教授 野中陽一朗 | |
| 8/22 | 火 | 教育方法 高知大学教育研究部 准教授 野中陽一朗 | |
| 8/23 | 水 | 発達心理 高知大学人文社会科学部 准教授 渡邊ひとみ | |
| 8/24 | 木 | 教育心理 高知大学教育研究部 准教授 福住紀明 | |
| 8/28 | 月 | 教育心理 高知大学教育研究部 准教授 福住紀明 | 教育評価(教育評価の理論) 高知大学教育研究部 准教授 福住紀明 |
| 8/31 | 木 | 教育評価(教育評価の理論) 高知大学教育研究部 准教授 福住紀明 | |
| 9/5 | 火 | 教育評価(教育評価の実践) 高知大学教育研究部 准教授 野中陽一朗 | |
| 9/6 | 水 | 看護倫理(概論) 高知県立大学看護学部 准教授 藤代知美 | |
| 9/7 | 木 | 看護倫理(演習) 高知県立大学看護学部 講師 有田直子 | セルフケア理論 高知県立大学看護学部 助教 中井有里 |
| 9/14 | 木 | 看護論 高知県立大学看護学部 教授 池添志乃 | 家族ケア 高知県立大学看護学部 教授 長戸和子 |
| 9/15 | 金 | 実習指導の原理 高知大学医療学系看護学部門 教授 山脇京子 | |
| 9/19 | 火 | 看護教育課程 高知大学医療学系看護学部門 講師 下元理恵 | 実習指導の原理 高知大学医療学系看護学部門 准教授 佐藤美樹 |
| 9/20 | 水 | 実習指導の原理 高知大学医療学系看護学部門 准教授 中野葉子 | |
| 9/21 | 木 | 基礎看護学 高知大学医療学系看護学部門 准教授 笹岡晴香 | ヘルスプロモーション 高知県立大学看護学部 准教授 小澤若菜 |
| 9/22 | 金 | 母性看護学 高知県立大学看護学部 教授 渡邊聡子 | 小児看護学 高知県立大学看護学部 准教授 高谷恭子 |

| | | | | | |
|-------|---|------------------------------------|----------------|------------------------|------|
| 10/2 | 月 | 看護教育課程 | 高知大学医療学系看護学部門 | 講師 | 下元理恵 |
| 10/3 | 火 | 看護教育課程 高知大学医療学系看護学部門 講師 下元理恵 | 成人看護学 | 高知大学医療学系看護学部門 准教授 佐藤美樹 | |
| 10/4 | 水 | 精神看護学 高知県立大学看護学部 教授 田井雅子 | / | | |
| 10/5 | 木 | 在宅看護学 高知県立大学看護学部 准教授 川上理子 | 看護教育課程 | 高知大学医療学系看護学部門 講師 下元理恵 | |
| 10/6 | 金 | 老年看護学 高知県立大学看護学部 教授 竹崎久美子 | 実習指導の評価 | 高知学園短期大学看護学科 講師 東麻奈美 | |
| 10/16 | 月 | 実習指導の評価 | 高知学園短期大学看護学科 | 講師 | 東麻奈美 |
| 10/17 | 火 | カンファレンス指導法 高知学園短期大学看護学科 講師 竹内浩美 | 実習指導の実際 (Gワーク) | | |
| 10/18 | 水 | カンファレンス指導法 高知学園短期大学看護学科 講師 竹内浩美 | 実習指導の実際 (Gワーク) | | |
| 10/19 | 木 | 実習指導の実際 (Gワーク) | 模擬カンファレンス準備 | | |
| 10/20 | 金 | 実習指導の実際 (模擬カンファレンス含) | | | |
| 10/30 | 月 | 実習指導の実際 (Gワーク) | | | |
| 10/31 | 火 | 実習指導の実際 (Gワーク) | | | |
| 11/1 | 水 | 実習指導の実際 (Gワーク) | | 発表会準備 | |
| 11/2 | 木 | 発表会 | 閉講式 | | |

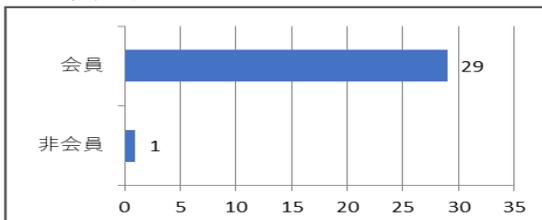
表2. 令和5年度 保健師助産師看護師実習指導者講習会 科目・時間数・内容

| 区分 | 科目 | 単位数 | 時間数 | 目標及び内容 | |
|------|---------|--------------------|-----|------------------|---|
| 基礎分野 | 教育の基盤 | 教育原理 | 1 | 15 | 教育の本質の基本知識、概念及び必要な理論を学ぶ。 ・教育の本質、目的 ・教育活動の特性 |
| | | 教育方法 | 1 | 15 | 教育方法の基本知識及び必要な理論を学ぶ。 ・授業形態、教育方法及び教材の活用 等 |
| | | 教育心理 | 1 | 15 | 人間の発達と学習過程における心理的特徴についての 基本知識及び必要な理論を学ぶ。 ・成長発達に伴う学習者心理の理解 ・学習過程における心理 等 |
| | | 教育評価 | 1 | 15 | 教育評価の基本知識及び必要な理論を学ぶ。 ・教育評価の目的と方法 ・講義・演習・実習評価の方法 等 |
| 専門分野 | 看護論 | 看護論 | 1 | 15 | 人間の健康、看護の考え方を多角的に学び、看護に ついての視野を広げ、自己の看護観を明確にする。 ・看護の機能と役割 ・看護場面と看護観の再構成 ・健康の概念と健康支援 ・倫理的課題とその方法 等 |
| | | 看護教育課程論 | 1 | 15 | 看護師等養成所の各教育課程の概要を学び実習指導 につなげる。 ・教育課程の基礎知識 等 |
| | 実習指導の基盤 | 実習指導方法論 (評価を含む) | 2 | 30 | 実習指導案について理解し、教授方法を学ぶ。 ・実習指導の方法 ・実習評価の意義と方法 等 |
| | | 実習指導方法演習 | 2 | 60 | 実習指導の展開の実際を学ぶ。 ・実習指導案の作成及び評価 (過程別、学年別、専門領域別等) ・実習の評価 等 等 |
| | | | | | 領域・対象別看護 3 基礎看護 3 成人看護 3 老年看護学 3 家族看護 3 小児看護 3 母性看護 3 精神看護 3 在宅看護 |
| | | | | 36 | 指導案の作成 ・実習指導の展開について理解を深め演習等を通して 実際を学ぶ ・領域別の三観、週案、日案、場面設定指導案、カン ファレンス指導案を作成 |
| | | 10 | 180 | | |
| その他 | | | 9 | | |
| | | | 3 | 医療・看護の動向 | |
| | | | 6 | オリエンテーション・発表・閉校式 | |
| 合計 | | | 189 | | |

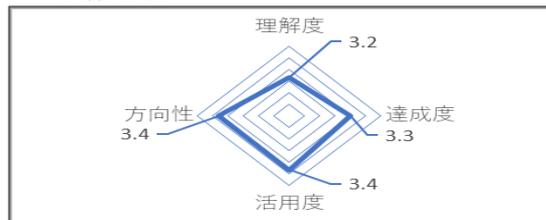
1. アンケート結果

配布:30名 回収:30名 回収率:100%

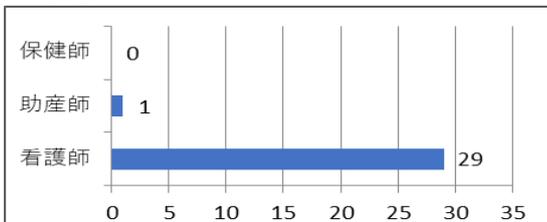
会員の有無



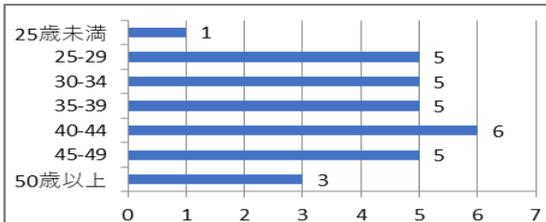
4段階評価



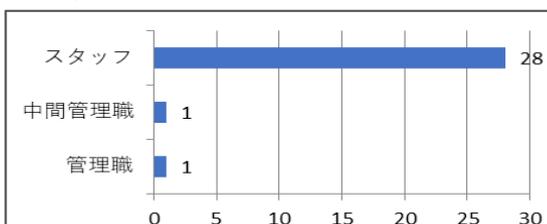
職名



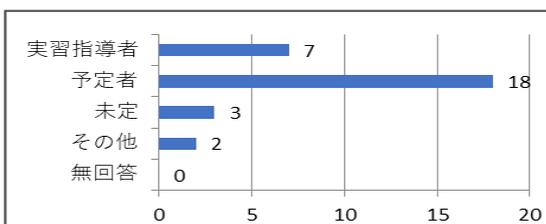
年齢



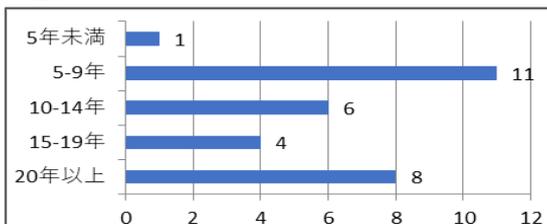
職位



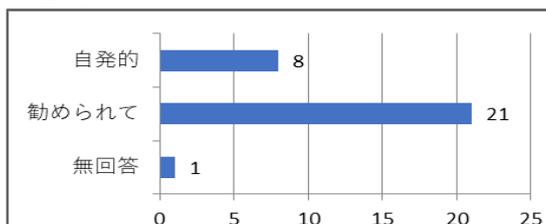
役割



経験年数



参加について



2. 感想・意見等(抜粋)

- ・今の学生の実態や教育方法を学び、実習指導で活用できる指導法を知ることができた。
- ・自分の課題が明確になった。
- ・教育とは何かを知ることができ、自分の経験、知識として身につける事ができて良かった。
- ・講師の話がとても分かりやすく、聞いている側を配慮してくださっているなどとても感じた。細かい気づかいや声掛けがとてもありがたく、気持ちよく受講することができた。
講義内容では興味深い事を知ることができ、今後の指導に反映していきたい。
- ・漠然と思いついて「こんな実習にしたい」という思いを、より具体的なモノにすることができた。
自身がロールモデルであり続けること、看護師や指導者は決して学生の敵ではない、恐れる存在ではないこと、学びの伴奏者であることをしっかりと示し、有意義な実習を一緒に作っていききたい。

3. 担当者コメント

本年度は18施設から31名が修了した。

令和5年5月に新型コロナウイルス感染症が5類対応になり、8月から始まった本講習会は、基本的感染対策を遵守しながら4年ぶりに集合のみで開催することができた。「他病院の方々と交流が持て、久しぶりにグループワークもたくさんできて良い時間になり、参加できて良かった。」という意見が多く、集合形式の重要性を再認識した3か月であった。

本講習会の次回開催は令和7年度である。可能な限り集合形式をとりながら受講生のネットワークの構築につながるよう、意見交換や交流が図れるような新たな形式等の企画が必要と考える。